

図 5-1 統覚型視覚失認の視覚認知

左図は模写の試み、右図は上段と同じ形を選び出す試み (Benson ら, 1969より)。

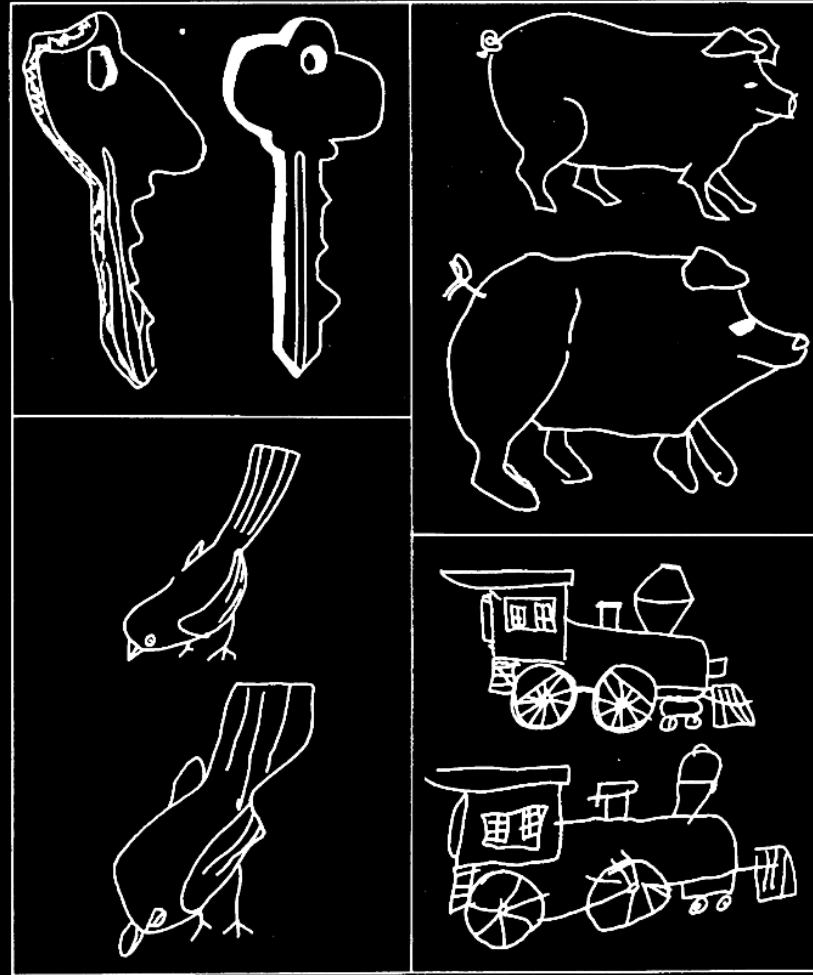


図 5-2 連合型視覚失認患者の模写

コピー前にはどの絵も分からず。コピー後の反応
鍵(左上)：「まだ分かりません」、豚(右上)：「犬かも知れないし、何か他の動物かも知」、鳥(左下)：「切り株かな」、機関車(右下)：「馬車か、何かの乗物。大きい車が小さいのを引いています」(Rubensら、1971より)。

図 9 - 5 純粹失読の書字サンプル

(59歳, 右利き男)

書き取り。病前の能筆は変わらず, サラサラと書く。しかし, 完全に正確でなく, 「犬も歩けば…」を「犬も当れば」と書き間違っているのに注意。この自分の字が後では全く読めない。

The image displays two columns of handwritten Japanese text. The left column contains the sentence '犬も歩けば...' (If a dog walks...). The right column contains the sentence 'ちりも...' (Chiri mo...). The handwriting is cursive and shows significant errors in character formation and recognition, illustrating the concept of 'pure reading disability'.

犬も歩けば...
ちりも...

パシフィック・リーグ

パシフィック・リーグ

パシフィック・リーグ

クリスマスツリー

図 9-7 純粹失書

生来左利きで、書字のみ右手を使用していた
57歳, 男

右前頭葉病巣（出血）による純粹失書。この
書字は右手のもの。左手でも同じ。上段は「パ
シフィック・リーグ」、下段は

「クリスマス・ツリー」の書き取り。口頭で
は正確に復唱するが、書字には失敗する。

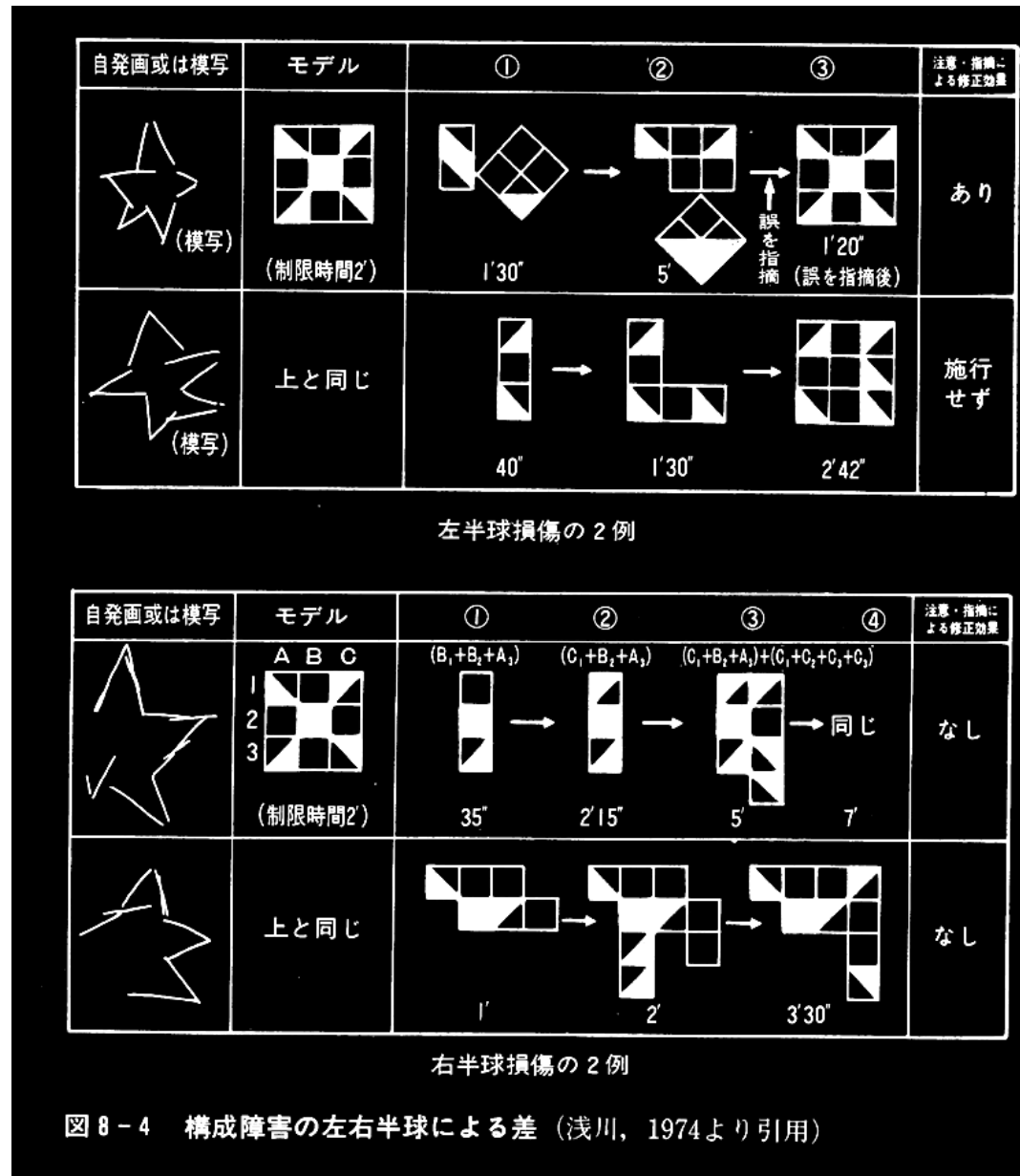
図 9-6 失読失書の書字サンプル
(65歳, 右利き女)

「うりのつるにはなすびはならぬ」,
「犬も歩けば棒に当る」の書き取り。
書字はスラスラとは進まず。字形の歪み,
字性錯書, 保続などがみられる。

う
り
の
つ
る
に
は
な
す
び
は
な
ら
ぬ

犬
も
歩
け
ば
棒
に
当
る

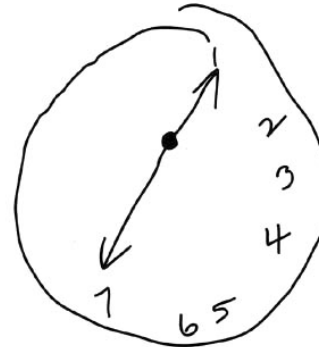
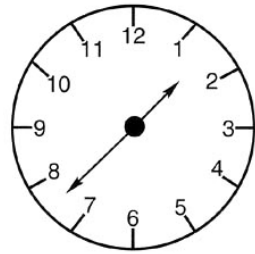
構成失行 constructional apraxia



左半側空間無視

Model

Patient's copy



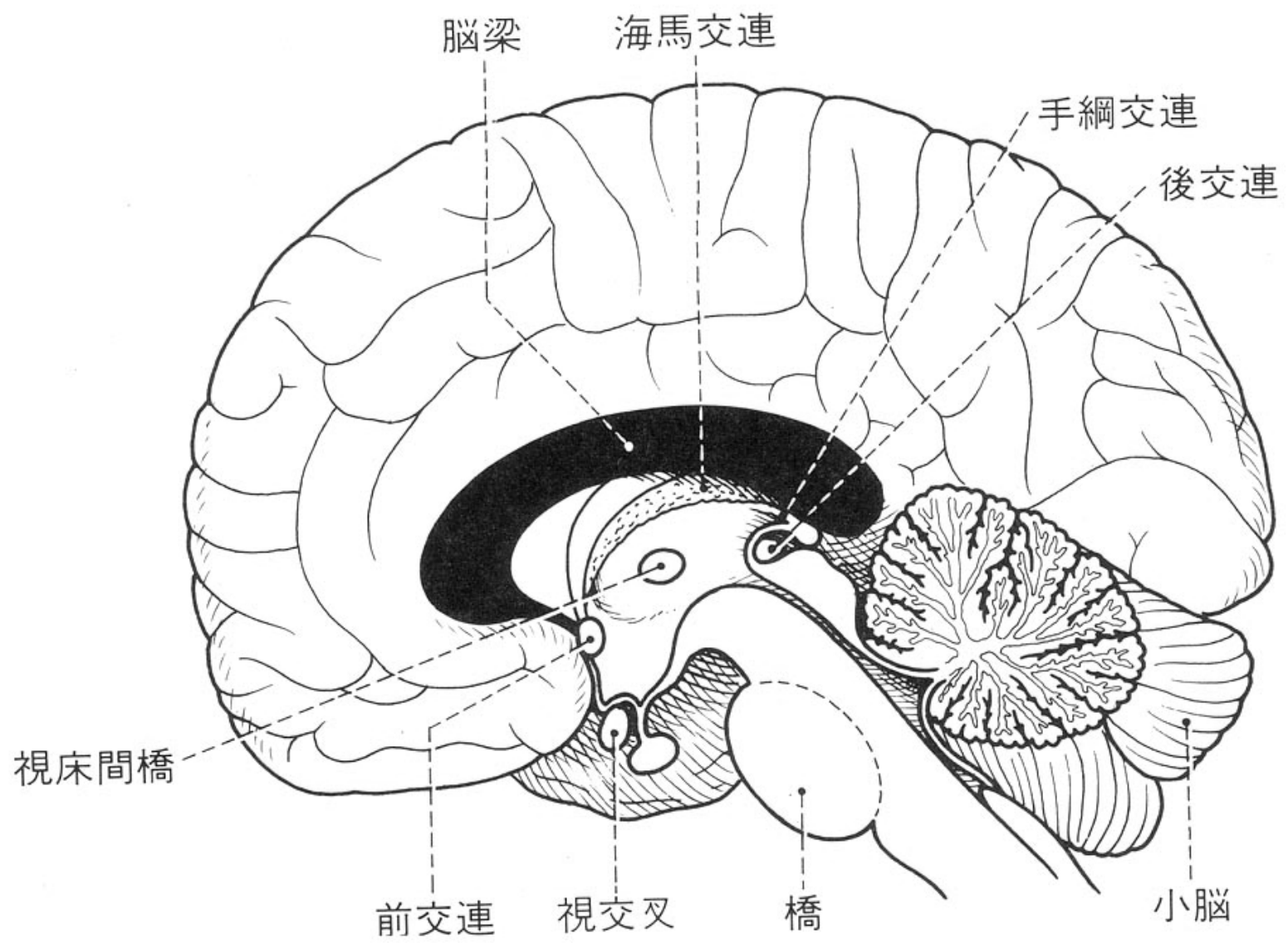


図 13-1 半球内側面交連線維を示す

黒で塗った部分が，全切断手術で切られることが多い。

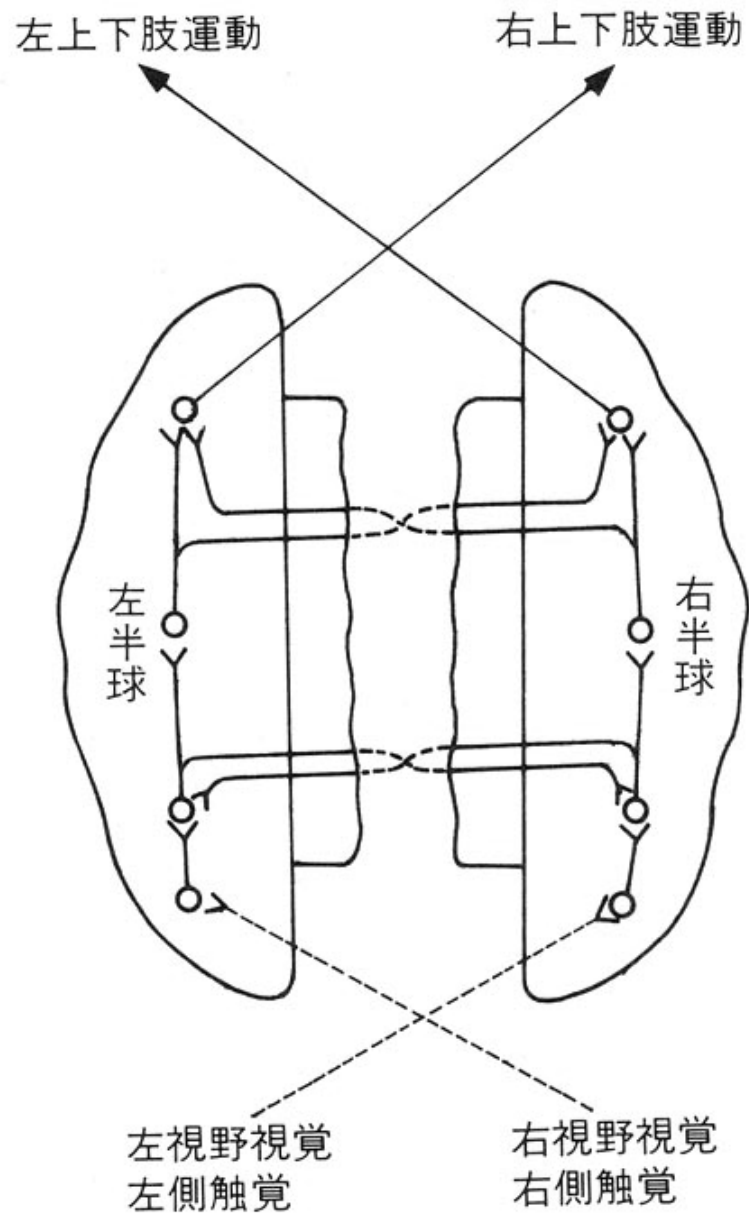


図 13-2 脳梁切断時の大脳半球入出力の基本シェーマ

交差入力，交差出力が原則。しかし嗅覚では交差なく，聴覚は交差がより複雑。

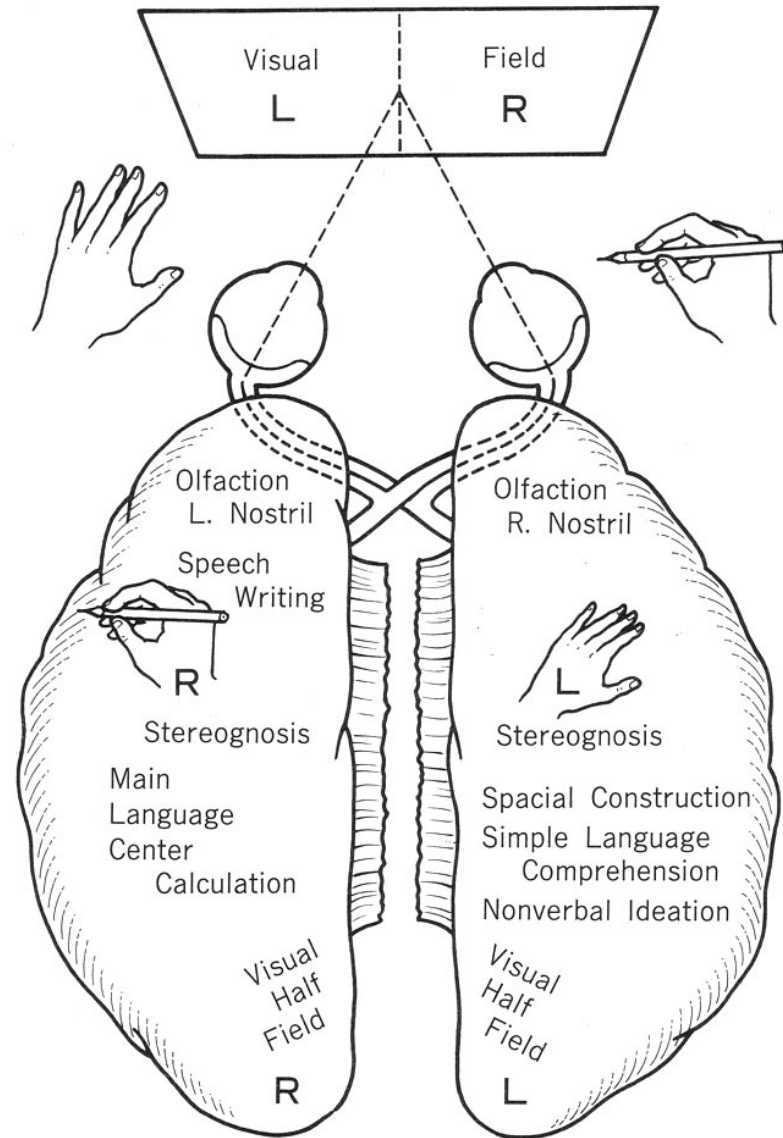


図 13-3 脳梁切断時の左右半球の機能差をあらわす
 シェーマ (Sperry ら, 1974より引用)

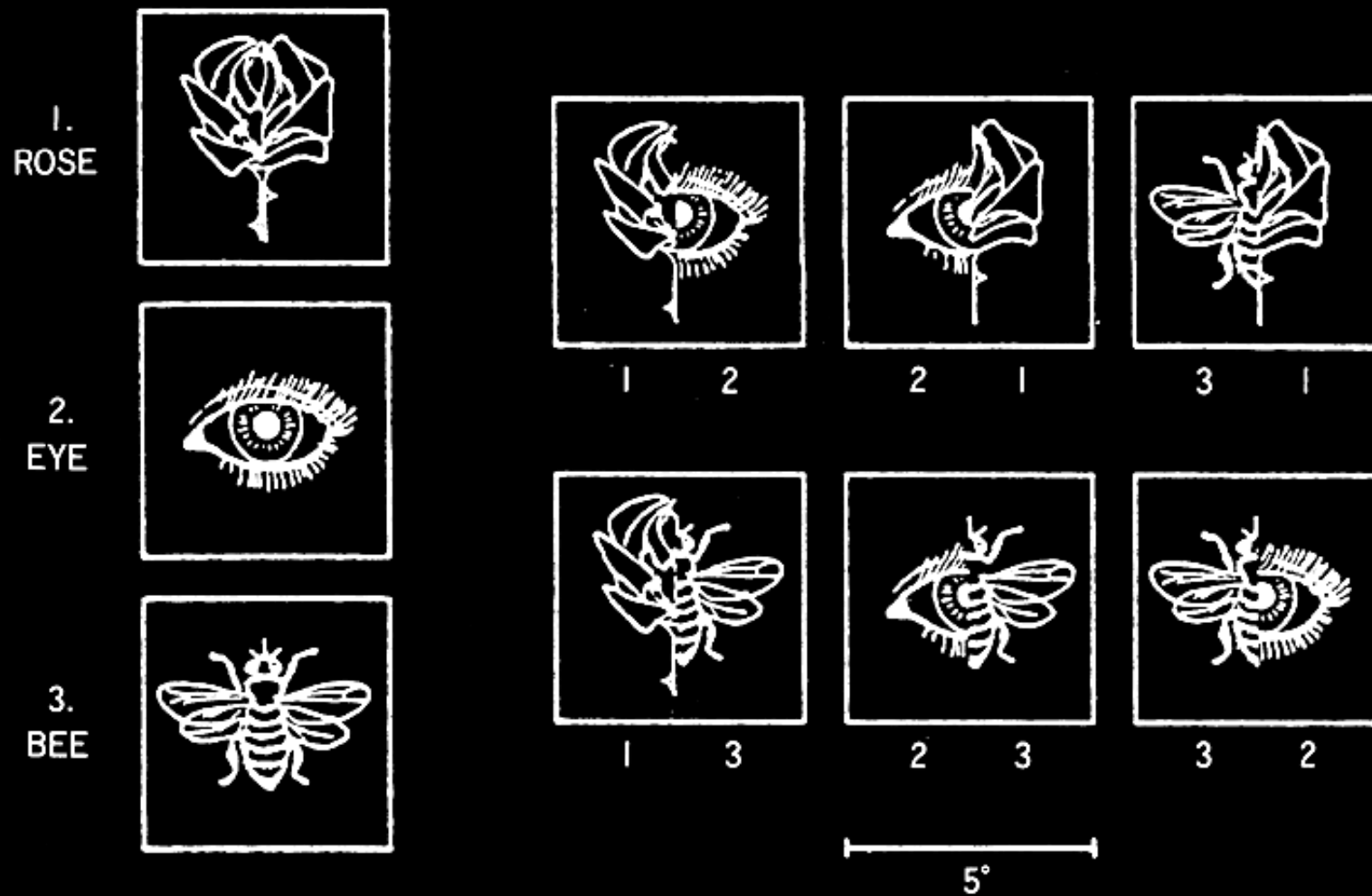


図 13-4 左右半球異種刺激同時処理の例

右図のようなキメラ像を瞬間呈示すると、それぞれの半球は反対側の半側視野に入る像を、それぞれ別々に完全なものとして知覚する (Levy ら, 1972より引用)。

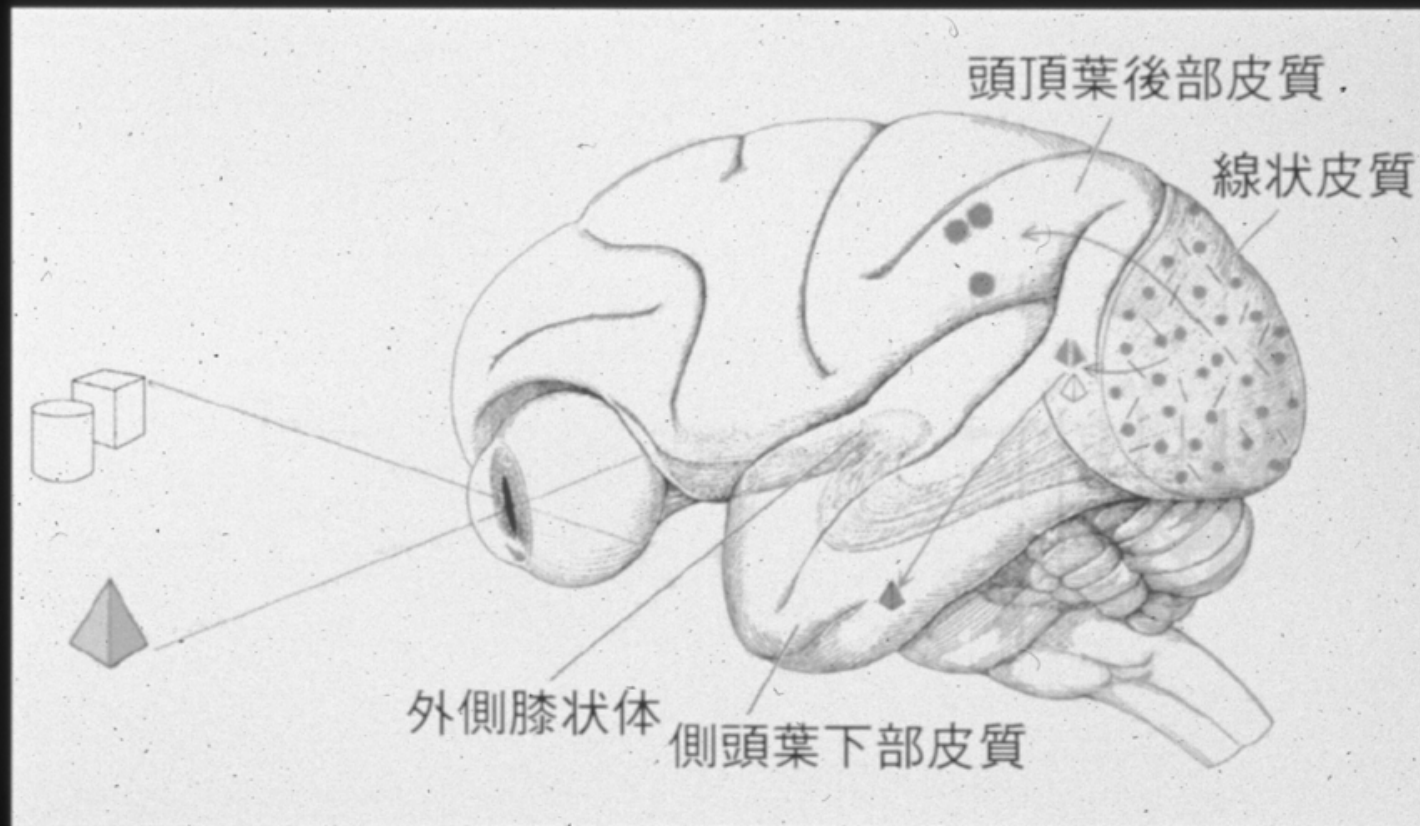
法
犬
の
歩
け
ば
棒
に
当
る

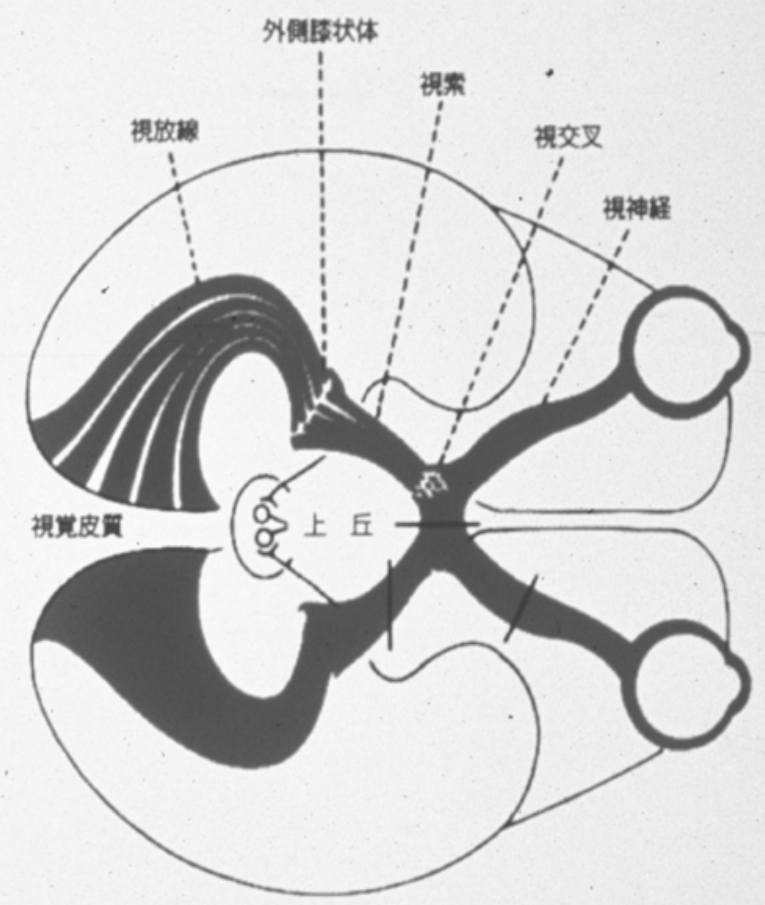
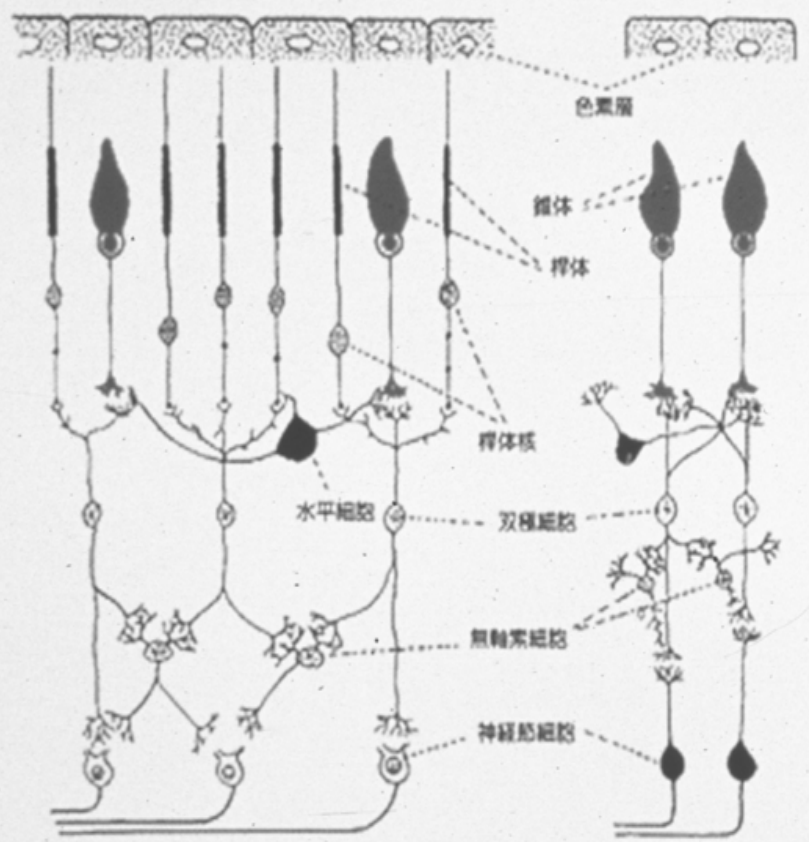
犬
も
あ
ら
け
ば
棒
に
あ
る

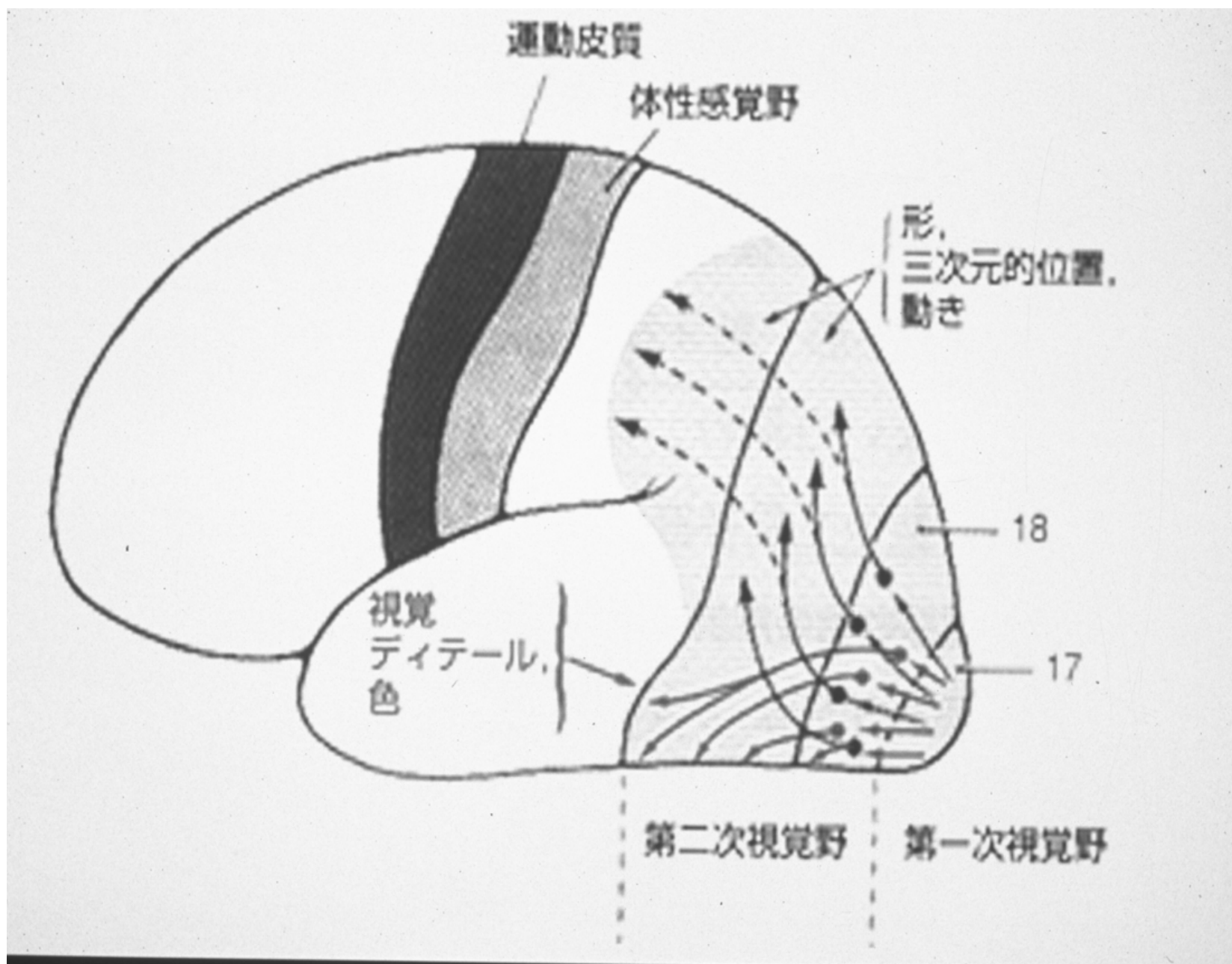
図9-10 脳梁損傷による離断失書の例
(53歳, 右利き男)

「犬も歩けば棒に当る」の書き取り。右手は正しい。しかし左手は「法」などの余計な漢字や、形態不明の字が書き出されている。

'What' と 'Where' システム

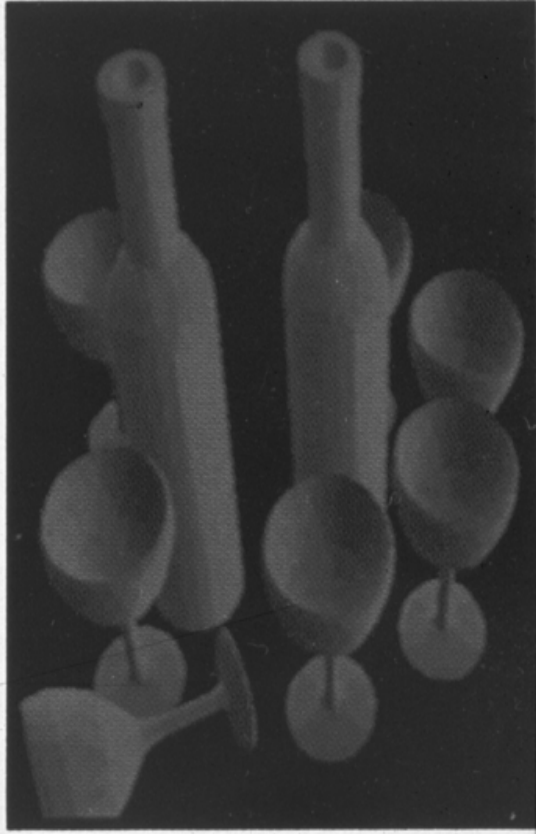
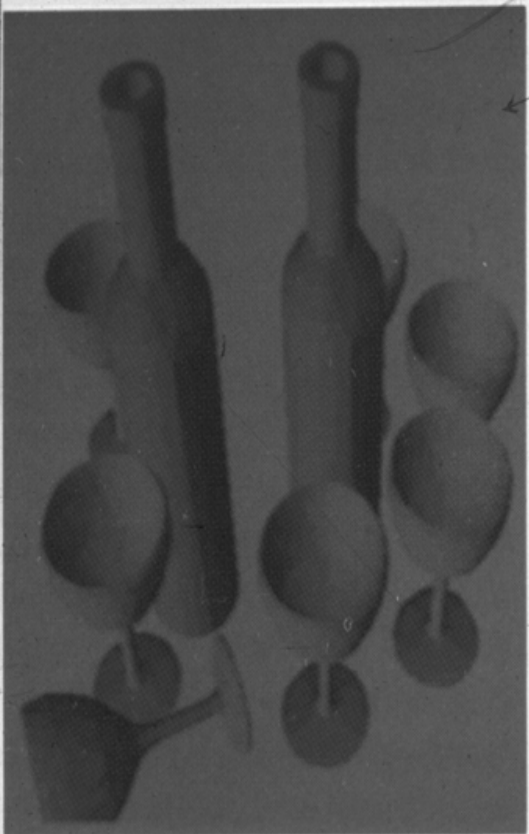


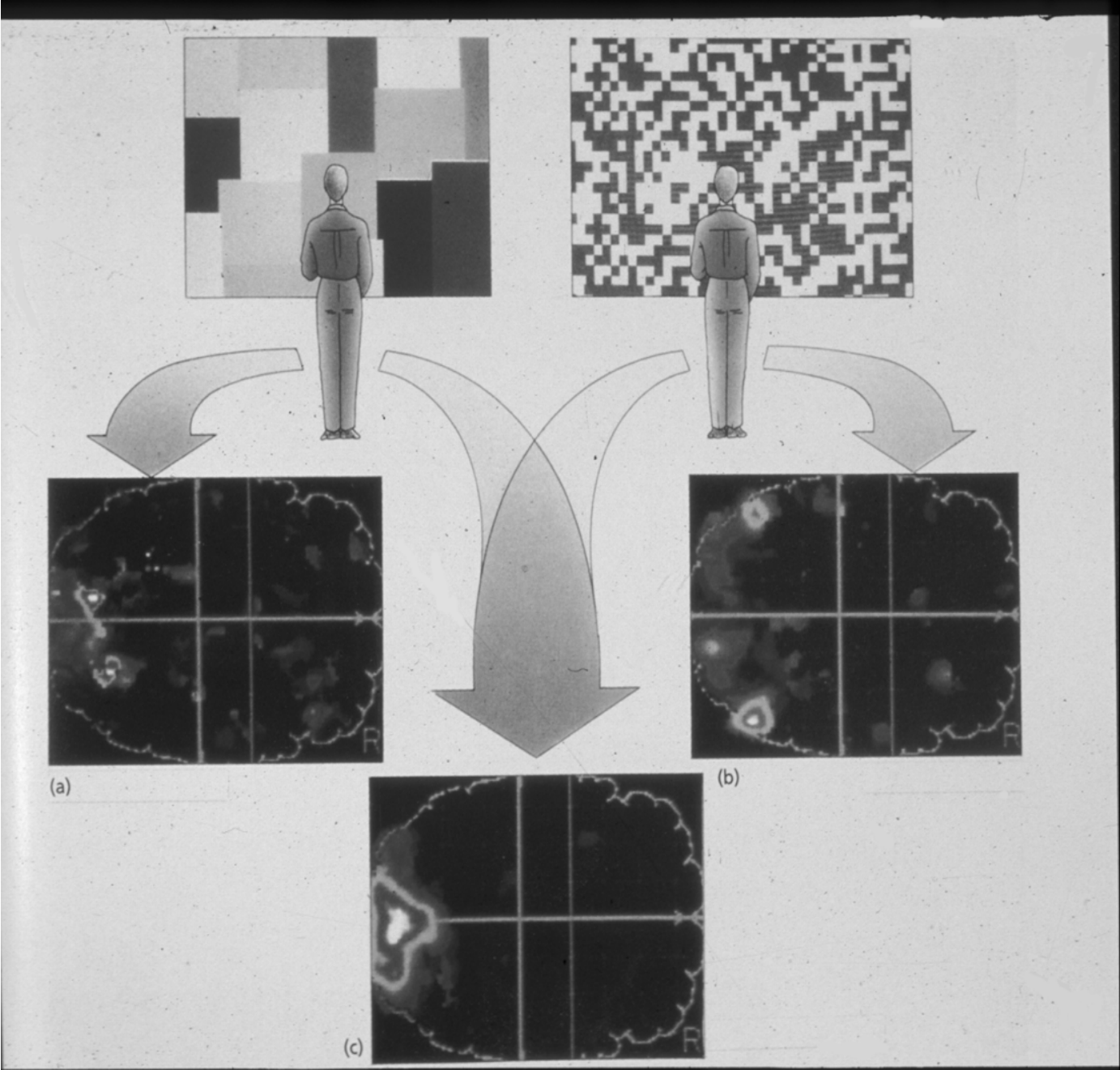




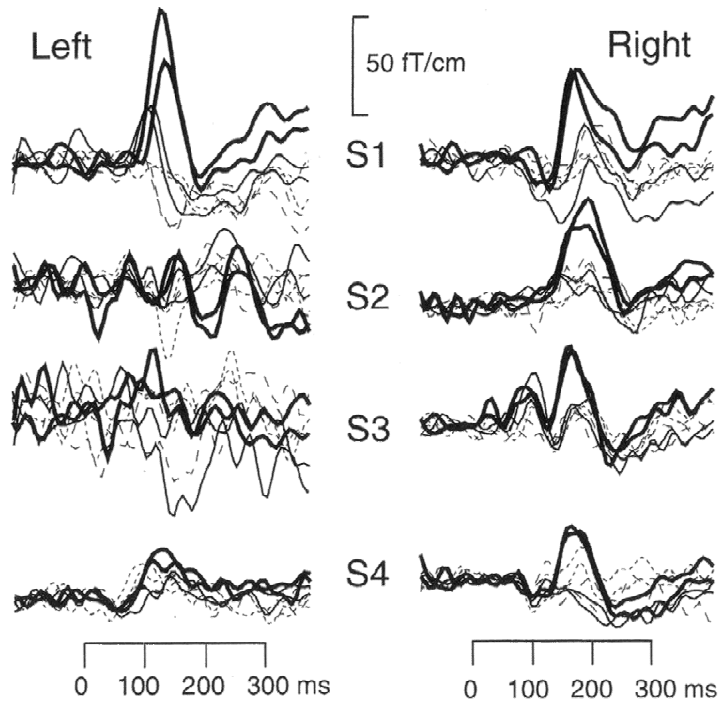
大細胞系と小細胞系の生理学的性質

	大細胞系	小細胞系
空間分解能	低い	高い
時間分解能	高い	低い
色の識別	不良	良好
コントラスト感度	高い	低い





顔認知：V4 (紡錘状回)



運動認知：V5

